



小学校の 教壇に立って



木村 恵司
三菱地所
取締役会長

昨年、親戚筋の小学校教師からある要請があった。約2年前から社会で頑張っている方々に教壇に立ってもらい、現実の世界で何が起こり、その中でどのような価値観を持って仕事をしているのか、生の声でお話しいただいている。そこで、企業のトップである私に、何か子どもたちにメッセージを直接伝えてほしいという趣旨であった。

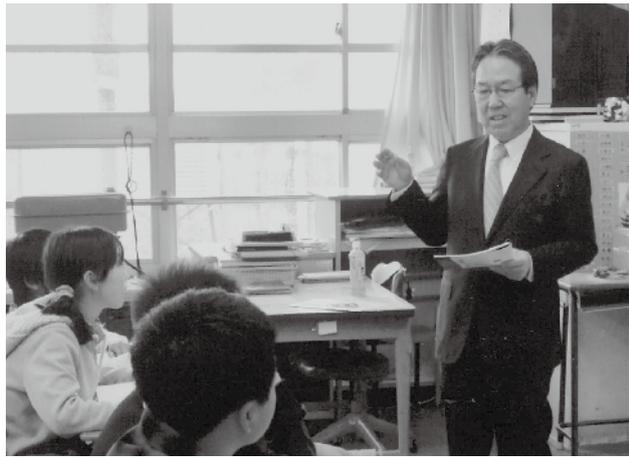
これまで、大人に対して何度か講演をしたことはあったが、小学校6年生にどのように語り掛け、私の話がどれほど役に立つのか若干戸惑いながらも承諾した。

昨年12月、場所は横須賀市立大楠小学校、6年生二クラス、それぞれ45分、当社の紹介を皮切りに30分程度私が話し、その後質疑応答となった。

私からは、「学思」という言葉を引用し、何をするにも「よく学ぶ」そして納得できるまで「考え」



授業後、子どもたちと懇談



授業風景

「行動する」、うまくいかない場合はまた学び、考え、行動する、これの繰り返しが大切である。その上で他人の立場や意見を尊重することによって、さらに自分を高めることもでき、組織、あるいはクラスも力を付けていくといった、「自己研鑽」と「チームワーク」の必要性について平易に説明した。加えて夢というのは一度挫折してもあきらめずに努力し、何度もチャレンジすれば実現できるもの、などなど……。

私の話がすぐに理解できなかったのか、その後の質疑応答では、「企業とはどういう所か?」「給料は?」など率直なものが多かったが、後日、子どもたちの感想文を受け取り、私の話をしっかり受け止め、自分なりによく考えていることに驚き、彼らの今後に期待も膨らんだ。

概して教育問題については学校のあり方、教育制度などに議論が集中する傾向にある。

基本的に、子どもは教師ばかりでなく、親や社会の大人たちの背中を見て育つ。今回の経験で教育とは、学校+家庭+社会が直接、間接に連携する「協育・共育」であるとの思いをあらためて強くした。